

ちょっと ブレイク しませんか?

第 51 回

バーバリ 伝説誕生

(2015年 印度映画)



イソップ寓話集の小話「ライオンの治世」は、以下のように語っている。

あるライオンが王位に即くことになった。怒りっぽくなく残忍でもなく、万事暴力で決することを好まず、人間の誰かさんのように穏和で正しいライオンだった。話によると、その治世に野に棲む動物たちの集会があって、お互いに罪の償いをしたりされたりしたという。オオカミは羊の、豹は山羊の、虎は鹿の裁きを受けるという具合に、皆が裁きに服し、皆が平和の裡にあったので、臆病者の兎はこういった。「この日の来るのをずっと祈っていたのです。弱き者が猛き者にも恐れられる、そんな日を」

遠い昔、赤ん坊を抱きかかえたひとりの老女が、追っ手の兵士から逃れながら滝の下に降り、近くの村に向かおうとしたところで足を滑らせて川に転落。老女はシヴァ神に「自分の命と引き換えに赤ん坊の命を救って欲しい」と祈り、赤ん坊だけが奇跡的に救出される。四半世紀後、村人に育てられた赤ん坊は逞しい青年に成長する。青年は滝の上の世界へ興味を抱き、何度も何度も滝をよじ登ろうと試み、遂に滝の上の世界に到達。そこで幻の天女に瓜二つの女戦士と遭遇。その女戦士は仲間たちと共に王国を支配する暴君と戦って、囚われの身となっている王妃を救出しようとしていた。雪山で野宿をしていた青年は女戦士に襲撃されるが、次第に二人は惹かれ合う。そんな時、王妃救出に向かった女戦士は敵に捕獲され、助けに駆け付けた青年は生来の怪力を駆使して敵を壊滅させる。辛うじて雪山から脱出した青年は、女戦士に代わって王妃救出の任務を引き受ける。向かった王国では現国王の誕生日を祝う祝典の最中で、黄金に輝く国王像が建立されていた。その一方で、民衆は重税を課され、反対者は容赦なく弾圧されるなど圧政に苦しんでいた。一方、都に潜入した青年の姿を見た一部の民衆は突如「バーバリ」の名を連呼。「バーバリ」と呼ばれても何も思い至らない青年は兵士に扮して宮殿に潜入し混乱に乗じて王妃を救出する。だが、現国王の息子に捕らわれる。脱走した青年の前に親衛隊長が立ちはだかり、更には女戦士の軍勢や青年を追ってきた養母たちが集まった。現国王の息子を殺害した青年に親衛隊長は槍を向けるが、その顔を見た途端「バーバリ」と叫び、鋒を収める。翌朝、青年は親衛隊長に「自分が一体何者なのか」と尋ねると、先代国王・バーバリの息子だと告知される。

ライオンは人間で言えば最高権力者だ。イソップは民の心が安らぐ王を期待したが、有史以来、穏和で正しい為政者など殆ど登場していない。例外はムヒカ大統領ぐらいか?この印度映画もそうした願望が込められた躍動感溢れる作品だった。嫉妬と策謀の渦巻く粘っこい韓流劇に比べるとあっさりしているのも良い。ハリウッドの進歩は著しい。それはさておき、オミクロン株の登場で二年余り続くコロナ禍との戦い、一刻も早く安心出来る地球に戻って欲しい。寒い駄洒落だが、勇敢な青年が附^あ抜^はけだと英国紳士服の商標になる。

※第50回「世界に一つの金メダル」のお話の前段のイソップ寓話の表題は「病人と医者」ではなく「若者と暴れ馬」でした。
校正点検の手落ちです。謹んでお詫び申し上げます。



かゆ かわ ゆう へい
粥川 裕平

(精神科医・映画評論家)

名古屋工業大学 名誉教授
かゆかわクリニック院長